

受験のはなし

7月がやってきた。この季節になると、どうしてもそわそわしてしまう。自分の受験を思い出すからだ。受験、とはいっても大学受験の話ではなく、7月にある教員採用試験の話である。私は教員としては遅咲きで、教員採用試験を幾度も受験し、4年前にようやく合格することができた。松山中央高校は初任で赴任した高校である。自分の合格体験記、というよりも長きに渡る受験生活は大学受験にも通じるところがあるのではないかと考え、恥ずかしながら、自分の受験の話を記していこうと思う。

私が教員になろうと思ったきっかけは、大学4年生の時の教育実習である。仕事へのやりがいを感じたこと、学校という場所が好きだった（大学で教職をとることは高校の時に決めていた）ことから、教職の道を選択した。しかし、採用試験の対策などしていなかったため、当然落ちた。運よく、大学卒業後の3月に講師（1年契約の先生）の仕事をいただくことができ、教員への道をつなぐことができた。

初めに講師として赴任した学校は職業高校であった。私は理科（化学）が専門であるが、そこでは、理科ではなく産業を指導する立場としての採用だった。その後赴任した学校もまた職業高校で理科に関しての指導には携わるようになったが、物理だった。私は大学卒業後、数年間、まったく化学を教えていなかった。採用試験は毎年受けてはいたものの、生活に不便がなかったことと教材研究でいっぱいだったことを言い訳に、毎年あまり勉強していなかったため、当然落ち続けていた。

しかし、気が緩みっぱなしだった私に転機が訪れた。次に赴任する学校は普通高校、しかも、その地域では1番の進学校だった。そんな場所で私は初めて化学基礎を教えることになったのである。これまで化学に触れてこなかった時間が長かったため、将来受験に化学を使う生徒もいるのに自分なんか教えて大丈夫なのだろうか、ものすごく不安だった。しかし、教科書を読み込み、自分で授業プリントを作成するなどし、一生懸命頑張った。（今中央で使っている化学基礎のプリントはその時作ったものがベースとなっています）当時の生徒たちがよく質問に来てくれていたのも、ありがたかった。質問により、生徒たちが何をわかっていないのかをわかることができ、教材研究に生かされた。また、その学校には化学の教員が私を含めて4人いた。その中の一人、Y先生は常に何か実験を見せる・させるという授業をされていた。Y先生の授業を何度か参観させていただいた。先生の授業はとてもおもしろく、勉強になり、改めて「化学」という学問に魅了された。この学校で教材研究を深めたこと、尊敬できる先生に出会ったことを機に、本気で教員採用試験に合格するための勉強を始めるようになった。ただ、この学校から転任が決まった頃は、結構な回数の試験を受けており、精神的にだいぶ苦しかった時期でもあった。次の受験を最後に、転職も考えていた。

次に赴任した学校で、初めて一次試験（学科試験と集団討論・面接）に通った。この学校では、「講師は合格することが仕事よ」と励ましをもらい、勉強に集中させてもらえる環境があった。この学校も地区で1番の進学校で、講師は合格していなくなるというジンクスがあり、少し...いやかなりプレッシャーだった。採用されたい思いは強かったが、二次試験（小論文・個人面接＋一次試験の総合）で落ちた。勉強をしていた分悔しかったし、未練は残るが、もう勉強をやめたいという弱い気持ちがあった。不合格の報告をお世話になった当時の同僚の先生方にした。「来年も受けるの？」という問いに「もう来年は転職しようかと考えています」と答えると、「もったいないよ、あと1年、頑張ってみなよ。きっといい先生になれるよ。」と言ってくれた。家族や親友も同じようなことを言ってくれた。そうして私は、来年で本当に最後の受験にしようかと覚悟を決め、最後の勉強を始めた。

また、私はこの学校で3年生に初めて化学を教えていた。ここの生徒もよく質問に来てくれていた。ある日、ある生徒と進路の話になった。「将来海猿になりたいんです。」「海猿!？」確かに良い体格をしていたが、大学進学を考えていると思っていたので驚いた。無知な私は聞いた。「海猿になるにはどうすれば良いの?」「海上保安大学校に入学します。上位60名に入れば、海猿になれます。」「おおうじゃあ60番以内に入らないといかんね。」「いえ、1番で海猿になります!」この一言に私は衝撃を受けた。「目標は海猿になることじゃなく、1番で海猿になることなので!」と彼ははっきり言ったのだ。その夜、これまでの自分を振り返ってみた。私は合格することは考えてきたが、1番で合格することを

目標に行動したことはあっただろうか。自分の考え方や努力の行動を見直す必要があるのではないか——。(ちなみに彼は無事合格しました。今はきっと立派な海猿になっていることでしょう。)

その日から仕事以外のタイムスケジュールをすべて勉強に充てた。自動車通勤だったのを電車通勤に変え、電車内でもずっと勉強していた。3年化学の指導は自分の受験対策になったので、とてもありがたかった。もう1科目の物理(当時の高校理科の採用試験は2科目受験)がネックだったので、直前期は物理の勉強ばかりしていた。ここで幸運だったのが、この時の私の常駐場所が物理準備室だったことだ。物理の先生が常に近くにいたので、毎日めちゃくちゃ質問をした。プロに聞くのが一番だなと心から実感した。

そして私は翌年、教員採用試験に合格した。合格発表の日のことは、今でも覚えている。色々な人が喜んでくれた。私もとても嬉しかったし、誇らしかった。化学も物理も9割を超え、面接もこれまでに最高の得点だった。これまでの経験校で出会った同僚や生徒たち、家族や友人のおかげで頑張ってもらったことを、心から感謝している。私の合格までの長い時間は決して自慢できるものではないが、この経験が今の自分の教員人生を支えてくれている。現在はこれまで色々な人からもらってきたものを、目の前にいる生徒たちに還元していこうという思いで、日々の仕事に取り組んでいる。

さて、ここからは受験期に大事だと感じたことをお話ししようと思う。まず、みなさんは、「**学習習慣の確立**」はできているだろうか。基本的な学習時間が取れていない人は受験の神様から門前払いされる。「できる、できない」ではなく、まずは「やるか、やらないか」だ。やっていない人に成功が訪れるほど、受験は甘くない。そこをクリアできている人は次の3点を意識してほしい。

① **目標をもつ** 私は、目標を明確に持ち始めてから勉強に身が入った。「担任をもちたい」「1年生の時から化学を3年間教えた生徒を育てたい」など、これらは合格しないとできないことだった。大学入学後、「何をしたいか、どういう大人になりたいのか」は、人生の指針としてあった方が良い。

② **チャンスをつかむ** チャンスはいつもそこに転がっている。多くの人は気付いていないだけである。チャンスに気付くためには、自分のことばかり考えないこと、素直であることが重要だ。また、チャンスにはタイミングがあるので、タイミングを逃すとどこかへ行ってしまふ。あなただけに特別にチャンスが訪れるわけではないということだ。

③ **応援される人間になる** あなたが今安心して勉強できる環境は、あなたが作り出したものではない。この環境は家庭や学校や社会があつてこそだと、周囲の人たちに感謝をしてほしい。そしてちゃんとやるべきことをやる。(学校に来る、模試を受ける、補習を受けるなど) 周りが応援したくなる人は、ちゃんとした姿勢がある。周囲の応援は、必ずあなたが苦しいときの力になる。自分を過信しすぎず、謙虚に、1日1日を過ごしてほしい。凡事徹底(挨拶、清掃、時間厳守、身だしなみ、規則正しい生活)を大切に。

最後に、今回この話をしたきっかけは、昨年度の卒業生である。6月マークの結果に落ち込んでいた際にこの話をしたのだが、話を聞いて、受験のスイッチが入ったらしい。彼は自分の受験と人生にしっかりと向き合い、最後まで努力し、成功をつかんで卒業した。離任式の日、「3年の担任になったらこの話を3年生にしてほしい」と薦めてくれた。あまり立派な話ではないので気恥ずかしいところはあるが、誰かの役に立てるなら幸いだと考え、自分の話をすることを決めた。思ったより長くなってしまったので、印刷サイズが大きくなってしまった。申し訳ない。ここまで読んでくれたみなさん、ありがとう。

受験勉強は楽しいより苦しい方が大きい。しかし、そこに耐えて我慢して努力をすることが今は必要なのだ。幸せな結末を迎えたいのならば、「今」この瞬間をしっかりと考えて行動しなければならぬ。始まりがあれば終わりがある。共通テストまで200日を切った。さて、この後どう過ごす？

